

平成 22 年 11 月 24 日

檜山情報教育研究会実技講習会に参加して

せたな町立若松小学校 教頭 佐々木 朗

1. 檜山情報教育研究会との出会い

以前から、檜山には檜山情報教育研究会があるということは聞いていたが、活動も休止状態であった。今年度になり、事務局長の安田教頭先生のご努力で、休止状態から復活するというので、私も研究会のメンバーの一員に加えていただき、活動を開始した。

2. 私と情報教育サークル

私とコンピュータの初めての出会いは大学一年の時であり、数えてみると 30 年以上のつきあいと言うことになる。学生時代は、もっぱらプログラマーとして、統計処理のソフトの開発にあたった。

教職についてからも、自分にとってパソコンは身近であり、当時傍らの先生は、和文タイプで文書を作っていたのに対し、私は、ワープロソフトをプログラムで組んで、当時 20 万円近くした漢字プリンターを買って、学級通信を出したりしていた。日高の 2 校目で、新設校に勤めた。そこは、当時としては最先端というべきコンピュータ室が設置された学校であった。渡島に戻りたかったという気持ちはあったが、そこを任されたという気持ちもあって、教育用ソフトウェアの開発、視察への対応などを引き受けた。当時はハードウェアがあっても、教育用ソフトなどほとんどなかったので、大学時代の技術を教育用ソフト開発に応用し、算数を中心に自分の学年以外のソフト

ウェアも開発し、コンクールでは全国入賞も取ったのは懐かしい思い出である。

当時の日高では、子ども用にパソコンを導入している学校はわずかではあったが、連携を取りながら、ノウハウを交流していた。また、自分自身も、自校でやっていることを実践発表していった。

そのような中で、私は、「組織」というものの必要性を強く感じた。個人的な連携はした。でも、町内、また管内で、その分野のスペシャリストや興味のある人たちが集まって、研究を進めていくことが重要であると感じて、組織づくりを模索した。しかし若輩の 20 代の私では力及ばず、組織ができないまま、渡島に転勤になった。

30 歳で、渡島の恵山に赴任しても、私のライフワークはやはり「情報教育」であった。といっても、「パソコンを使った教育をどう進めたらいいか。」というのが課題であった。その頃になると中学校の技術家庭科に「情報基礎」という分野ができ、中学校を中心にパソコンを導入する学校がぼちぼちと出てきた。それぞれの学校が試行錯誤の状態であった。そんな中、組織づくりを求める者たちが集まり、平成 3 年に渡島情報教育研究会が発足し、私は副幹事長になった。茂辺地中を中心に定例の学習会を開くに至り、研究大会も開催した。

当時私の勤めていた東光中学校も、コンピュータ教室を増設することになり、私にその設計が任される形になり、かなり勉強

して、教育委員会にお願いした。かなり難題もあったと思うが、全て教育委員会が受け入れてくれ、当時としては、最高水準の教室ができた。今でこそ当たり前になったが、通信回線、ネットワーク、エアコン、階段教室、プロジェクター、大型スクリーンなどである。その年、コンピュータ室のこけら落としということで、管内の研究大会を開き、私が情報基礎の授業を行った。その後しばらくは恵山が、最先端を走り、各種技術講習会も行った。また、その時、町民講習会を提案したところ、教育委員会の方がとても喜んでいただき、地元の方たちとコンピュータのイロハについて、語り合った。今も地域講習会をしたいという思いの原点である。

その後3年目から6年間、私は渡島情報教育研究会の幹事長を務めることになる。夏、冬の先生方の技術講習会、研究大会、そして年度末の研究紀要の執筆を定番行事としながら、数々の事業を実践してきた。コンピュータグラフィックコンテスト、教育長のパソコン講習会、合宿研修など、派手にやったものであるが、会員数は随分伸ばし、スキルアップも図れたと振り返る。

その頃、毎年のように道研に通い、情報教育の講座に参加し、全道の人々のネットワークも少しずつ持てるようになり、全道情報教育連絡会を発足させ、私が事務局長を務めた。その後会は、発展的に解散することになるが、随分たくさんの方と交流をすることができたと思う。

3. 今回の講習会

私は、ずっとこの情報教育という道に携わってきて、情報教育に対する気持ちには

とても熱いものがある。何でもかんでもパソコンという気持ちは全くない。でも、パソコンを使うと教育効果があるもの、ありそうなものについては、どんどん試して、その効果を検証していきたいと思っている。そして、職員室の情報化についてもである。紙中心の文化から、情報化により電子化して便利なものはそうしていきたいし、電子メールやホームページの活用などももっともっと身近なものにしていきたいと思う。そして、私が大学院でテーマとした「情報教育の影」の部分の指導についても深めていきたい。私はずっとパソコンの積極的な活用を研究してきた。ところが2000年のiモードの発売あたりから、コンピュータやケータイが悪いことに使われはじめることになる。子どもたちが、情報の影の部分に陥ることなく、しっかりと自分の力で情報を活用していくような力を育てたいと常々思っており、昨年単P研でも多少無理を言って、そのような方向性で、携帯電話の危険性についての講習会を行った。

今回エクセルについての講習会を行った。会の復活に際して、「是非私にエクセル講座をやらせて。」というわがまを言ったわけであるが、会ではそれを聞き入れてもらった。

大学では情報機器入門という授業があり、ある程度の基礎的な力はつけてきている。しかし、校務で活用するとなると、もう少しスキルアップをした方がいいと考える。また、年齢を重ねるにしたがって、エクセルと出会っていない先生も多い。エクセルは、計算機能として、またデータベースとして、手軽に我々が操作することができるすばらしいソフトである。なんとかこのエ

クセル、よく自分で「エクセル教の布教者」などと言うことがあるが、その便利さを広めたいなあと思っている。今回の講習会は、内部の先生ばかりであり、ちょっと「あれれ？」というものもある。しかしながら、その参加者の中でも、「こんな昨日は初めて知った。」という声を聞いた。今回のテキストも、今まで私が数多く、手がけてきた講習会のテキストをもう一度見直し、わかりやすく書き直したものである。

そういうわけで、今回はある程度のスペシャリストが集まってしまったので、講習は、受講者のスキルをみながら半分もいけ

ばいいなあ、ができるわけもないと思った豊富な内容であるが、全てを時間を余して講習することができた。一般の初級講習会の3倍ぐらいの内容である。

でも、本当の基礎の基礎から、中級レベルぐらいまで、今までの講習のノウハウを入れながら作った結構な自信作でもある。

長期休業などに時間を見つけて、取り組んでいただけたら、とても嬉しい限りである。

テキストやテキストに使われているデータは私のホームページにあります。

<http://www.edu-hakodate.jp/sasaki>